



Rotary Weekly



広島空港ロータリークラブ週報

2020年12月2日発行

ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度

国際ロータリーテーマ

会長 伊藤 保 / 副会長 河井一朗 / 幹事 兼田昌紀 / SAA 橋濱智美

事務局 三原市本郷南6丁目3-26番地 三原臨空商工会 2階

TEL 0848-86-0986 ・ FAX 0848-86-0992 ・ E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp

例会場 広島エアポートホテル TEL 0848-60-8111

12月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
例会 例会 例会 Xmas例会 休会 休会

本日のプログラム (12月2日)

谷本康信 会員 【2018年7月西日本豪雨】
「被災直後からの本郷中央病院のあゆみ」

次回のプログラム (12月9日)

谷本佳弘 会員

第1196回 2020年11月18日 例会記録

点 鐘 伊藤 保 会長

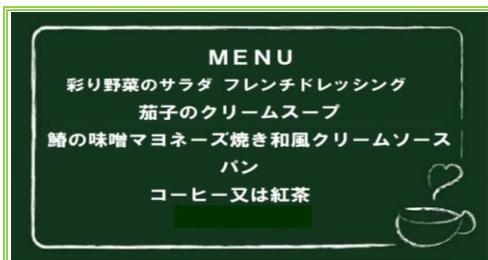
ロータリーソング「それでこそロータリー」

ロータリアンの行動規範唱和

出席報告

	会員数 名譽・シニア	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本日 (11/18)	28 2	21 1	1	4 2	84.62
メイク	重森				
前々回 (10/28)	28 2	22 0	1	3 2	88.46
メイク	乗越				

食事時間



会長時間



11月はロータリー財団月間です。ロータリー財団の使命は、「ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること」とされています。

一番目に挙げられているのが、ポリオプラスです。

ポリオ撲滅はロータリークラブが最も力を入れている事業のひとつと認識しています。広島北ロータリークラブに在籍していたとき、子供のころに、ポリオに感染して、手足に後遺症をもったメンバーがおられました。その方の職業分類は医師で、会長も務めた方です。その頃から、ポリオプラスについて、いろいろと知ることとなりました。

まず、ポリオに関する事実としては、

- ①もっとも感染しやすいのは5歳未満のこどもである
- ②治療法はないがワクチンで予防は可能
- ③野生型ポリオの常在国はわずか2カ国
- ④1988年以来、発症数は99.9%減少した
- ⑤ポリオを永久になくさない限り、感染リスクは全世界の子どもにある、ということです。

1985年にポリオプラスプログラムが開始され、1988年には125カ国、35万件以上の発症が確認されましたが、その後、約30億人のこどもにポリオの予防接種を行い、発症数は99.9%減少しています。

今年8月25日にはWHOが、アフリカ地域の全47カ国において野生型ポリオウイルスの伝播が正式に断ち切られたことを発表しました。アフリカ地域の野生型ウイルスによるポリオの最後の症例は、2016年8月、2年間の無症例期間の後、ナイジェリア北部のボルノ州で記録されたものでした。紛争や人口移動といった課題が、現地の子どもへの予防接種を阻む要因となっていました。

アフリカ地域で野生型ポリオウイルスが根絶された今、世界人口の90%以上を占めるWHOの6地域のうち、5地域でポリオが根絶されたこととなります。WHOの東地中海地域に含まれるアフガニスタンとパキスタンでは、現在も野生型ウイルスによるポリオの感染が続いています。

現時点での課題は、ポリオの感染が途絶えたことのないアフガニスタンとパキスタンの2カ国における野生型ポリオウイルスの根絶です。アフリカでも引き続き、野生型ポリオウイルスが戻らないように、またワクチン由来のポリオウイルスから子どもを守るために、日常的な予防接種を強化する必要があります。ワクチン由来ウイルスによる症例はまれですがアフリカの一部地域で症例が確認されています。

ポリオを根絶するには質の高い予防接種キャンペーンを引き続き優先して展開しなければなりません。新型コロナウイルスの流行中も、子どもへのポリオ予防接種を行いつつ、医療従事者を新型コロナウイルスから守り感染拡大につながらないようにする必要があります。



世界の保健関係者や専門家は、アフリカだけでなく「世界からポリオを根絶する」という最終目標を達成するには、今後も資金調達とアドボカシー（社会的弱者などの権利主張を代弁すること）を維持していくことが重要であると述べています。この目的のために、ロータリー会員は引き続き重要な役割を担っています。

RI会長のクナーク氏は「今回の快挙はポリオのない世界に向けた大きな一歩です、しかし、闘いはまだ終わっていません。世界のポリオ根絶を実現するには、ロータリー会員と寄付者からの支援、そして医療従事者による懸命な努力が必要とされます」と言っています。

何としても、我々の時代で、ポリオ撲滅を実現したいと思えます。

幹事報告

《配布物》週報1195号、11月理事会報告、卓話資料
《回覧》12月例会出欠表
親睦ゴルフコンペ出欠表 12月20日

卓話時間



兼田昌紀 会員

『やりがい』を感じる施設づくり ～管理者への道 奮闘記～

職場において必ず問題になる事で、職員の確保・継続勤務・人間関係が挙げられると思います。当施設も万年人手不足に悩まされ、人員確保に翻弄し確保して育てるものの数年で辞めてしまうという負のスパイラルに陥っております。そこで今現在、私自身が行ってプロジェクトをお話ししたいと思います。

モチベーション

想像してほしいのですが、例えばレンガ職人さんが、空き地にレンガを積んでいるのを見かけ声をかけると

- ① そくなもん見ればわかるじゃろ！親方の命令でレンガ積んどるよ！暑くて かなわんわい。え～かげん懲り懲りよ～！！
- ② レンガ積んで壁を作っとるんよ～。この仕事は大変じゃけど、金になるけ～やっとるんよ～。
- ③ レンガ積んで後世に残る大聖堂を造っとるんよ！こんな仕事につけてとても光栄なんよ！

この様に、1つの仕事をとっても、本人のモチベーションで随分と取り組み方が違ってきます。

取 り 組 み

職員に自分がどうなりたいか、どう在りたいかを考えてもらいたいと日々思っております。

- ◆イメージを創る。
- ◆モデルを見つける。
- ◆視点を変える。
- ◆問題・意味を明確にする。
- ◆アイデアを出してもらう。
- ◆物事を具体化する。

職員一人一人の個別面談を定期的に行い、目標に対して超えやすい階段を一緒に考えて、1つ1つクリアする楽しみを体感してもらうことを進めております。

ですが、伝えていくのも、時間と労力が相当かかっていると思います。

目に見えるもの・見えないもの

自分自身がある意味スキルを持たないと対応できないと感じています。

- ① 傾聴スキル
→相手の話を共感の態度で聴く。
- ② 承認スキル
→相手の存在を肯定的にとらえ認める
- ③ 質問スキル
→相手の考えを理解し答えを引き出す

問題を解決するのではなく、話をしていただき、聴き、受け入れることが必要ではないかと考えています。その中で、聴くことが重要と思います。

聴くという漢字は、
耳で聞いて+目で見て+心で感じる

私自身は、最後の心がポイントだと思います。職員の心に寄り添う、何をこの方は求めているかという事を考えながら、どういう仕事をしていただくかという事を考えながら動いています。

目に見えるものは、言葉・態度・行動ではありますが、目に見えないものは、その方の悩み・気質・環境・思考・動機・価値観。

目に見えるものを重視してしまうと目に見えないものが軽視され、本質が見抜けなくなってしまうことが私自身多々ありました。個人の本質を理解し、問題点の早期発見に努める事で、職員の離職への足止めになればと思います。日々試行錯誤しております。

や り が い

教育とは…

◆◆ 教える→指導 ◆◆

(関係性が難しく、上下関係を重んじて対応)

会社によっては、上下関係が必要などころもあると思いますが、介護関係では、あまり上下関係を作ってしまうと、職員との溝が深まり、仕事が雑になったり投げやりになる部分が出てくる場合があります。

◆◆ 育む→支援 ◆◆

指導では、他者決定・他者責任となり、支援では、自己決定・自己責任となります。自ら考え、答えを導き出すことで自身の『やりがい』となり、それが施設での『やりがい』に繋がることを目標としています。職員の性格・能力・向上心に合わせ、時間を掛けてその人のペースで進めることがポイントだと思います。



ただ、時間、労力をかけることによって、離職させたときのショックは本当に精神的なダメージが大きく、なかなか立ち直れない部分はあります。

私自身が考えている事は、介護職になろうとして来てくれる方と、仕事がないから介護職を目指そうという方の2パターンがあります。介護職になりたいと思っている方は、ある程度の難題もクリアしやすいのですが、そうでない方は、金銭面が第一に上がってきます。自分がどれだけの仕事ができるかではなく、まずは給料から、次は休みを何日下さい。という事になります。

やはり介護職というのは、利用者のお世話をさせて頂いて、それによって利用者から対価を得るという事に繋がると思っていますので、先ず自分がどれだけやったかという評価になると思います。ですから、初めは給料ベースはあまり高い水準には上げられないのですが、仕事ができる、主任クラスになる、スキルを身に付ける、資格を取る等しながら少しずつベースを上げていくという事をつなげたいと思っています。

今のご時世で、介護職、医療職に関しては、コロナ禍にあり、とにかく誰か務めて頂かないと本当に現場が回らなくなるという事が実際の所です。

しかし、働いていただく以上は専門職として考えてもらえるようにつなげていきたいと思っています。

皆さんから教えを頂きながら、いつか実ることを期待して日々頑張っております。

Q & A

Q. どれくらいで、一人前になりますか？

A. 介護職経験者は、スタートラインを高め設定できますが、初心者の場合は、技術もそうですが、心づもりから入らないといけません。1週間から10日一緒について回り、この時はこう対応するなどマンツーマンでお教えます。3カ月くらいは、誰かについていろいろ学んでもらい、その後月に1回くらい施設内で勉強会をします。3年ぐらいたら一人前になってくれます。ただ3年務まらない人が多いです。

Q. 良い介護者とは？

A. 利用者さんの性格的な事もあると思います。中には親切丁寧に敬語を使って、しもべの様に「〇〇様どうされましたか？」という風に膝まづいてされるのを好まれる方もいらっしゃいます。それが本当に良いのかという事は疑問が残ると思うのです。私が考える良い介護者というのは、どれだけその人に親身になれるかという事だと思います。私の職場では敬語（丁寧語）を使わないようにしています。高齢者の男性、女性に対して、自分のおじいちゃん、おばあちゃん、もしくはお父さん、お母さんの様に接するように、日々対応していくという事を伝えています。時々言葉が荒かったり、投げやりになっている部分もありますが、利用者さんとの距離が縮まり、「何が嫌なのか」「何をしてもらいたいか」という本音を聞き出していくように心がけています。それによって必ず責任が伴いますので、職員は、どういう気持ちでその言葉を出しているかというのは、常に反復しながら話しかけてくださいという事は伝えています。私が考えるには、どれだけ寄り添えるか、どれだけ身近にいれるかという事。孫であり息子であり良き相談者でありという形をとってもらいたいと思っています。

Q. コロナ禍の影響は？

A. 3月以降から施設の在り方も一変しました。外部業者の方（往診歯科、マッサージ等）すべてストップになり、利用者さんの健康管理がなかなか維持できなくなっている部分があります。ご家族の面会も初めは個別で部屋を用意していましたが、それもままならず窓越し面会になったり、10分間という時間短縮したりで対応しました。利用者さんは今まで出来ていたことが出来なくなりフラストレーションが溜まって、荒れてしまう方もおられました。職員自体も介護職という事で、県外への渡航は全部禁止、県内でも飲食は中止という事を会社から伝えられて、職員の方もストレスが溜まる状況でした。少しずつ緩和が出来ていましたが、また今後、制限がかかろうかと思っています。利用者さんがどれだけストレスを感じられているか、職員が汲み取れる様な、オールマイティーに動ける職員が育ってくれればと思います。

Q. 今後の介護保険制度はどのように変わっていくと思いますか？

A. 私自身の考えとしては、介護保険制度が既存の状態で行けるのは、後10年から15年だと思います。介護職員が増えてくれないと、今後は2人が1人の高齢者を看っていく時代になってきています。在宅医療、介護を国が推奨していますが、家族が自宅で高齢者を看するというのが非常に難しい時代になってきています。となると、こういう施設が本当であればもっと立ち上がって、高齢者の方をお世話できる状況にしていけないといけません。施設自体にも制限がかかってきたり、コロナ禍でデューサービス等が営業できなくなったりというのが増えています。今後はそういったところをどのように改革していくかという事だと思います。介護保険制度が衰退したとしても、必ず介護が必要な方は今後増えてきます。今のうちに専門的な知識を持っていただける介護職を育てていきたいと思っています。

Q. 介護者との相性について

A. 相性は当然あります。その人にはこの人が対応するという事は必要かと思っています。ただあまり融通をきかしてしまうと、ものすごくわがままになられたり、男女問わずセクハラ行為になる場合もあると思います。今後は、個別に対応できる人材を育てる事も必要かと思っています。

Q. 介護職員の募集方法（外国人の介護者）

A. 介護職経験者を集めるのは大変難しくなっています。公の募集になると、金額面で来られる方が多く、良く勤められても1年で辞められる方が多いのです。ですから今は、いろんな所で感じの良い定員さんにお声がけしたり、職員が「いい人がいらっしゃいますよ」という話を聞くと、その方の所にお話しに伺うという様にしています。

外国人の介護者の件ですが、言葉や生活習慣の壁でなかなか高齢者の方に受け入れられないというのがネックになっています。2025年に国内で不足する介護職の数は約38万人。介護福祉会においても、今後、外国人の方を受け入れながら、どのように育てていくかという勉強会も行っています。